

巻頭言

日本ALS協会北海道支部長
深瀬 和文

今年初めての絆発行になります。今年も宜しくお願いします。

外はまだまだ寒いなか、皆さんはどのようにお過ごししていますか。

自分は少し忙しい毎日を過ごしています。それは札幌市の新条例の委員になって勉強することが増えたことです。

新条例は障がいを持ったコミュニケーションをどのように市がより良い条例にするか有識者と各団体の代表者でコミュニケーションのこの条例をいかにより良い条例にしていくか話し合いをしていく検討委員会です。

この委員会は主に手話や点字に向けた委員会でしたが、市長の意向で幅広くコミュニケーションが使えるようにしたいとの思いで、重度の障がい者も反映した条例をつくろうとの事で、私にこの委員会に参加をして貰いたいとのことでした。自分で役に立つならと参加を決めました。この委員会での仕事は重度障がい者のコミュニケーションをどのように反映するかが自分の仕事だと思っています。重度障がい者のコミュニケーションは自分の身体で全く表現できないこととその人によってコミュニケーションの取り方が違うので、その辺を委員の皆さんに認識してもらふことと、どのようにコミュニケーションを取っているかを知ってもらふことで、どのように条例に反映させるかが仕事だと思っています。

自分の頭の中ではまずコミュニケーションツールの事を考えており、そのツールを条例の如何に反映させるか、今ある助成の中でコンピューター（伝の心とか）を使ってコミュニケーションを取る方法の助成があり、今は機械だけです。操作の仕方とかその患者に合わせたスイッチとかハード面だけでなくソフト面でも助成ができる条例にしたいと思っています。

また4月から、かでの2・7で絆サロンを行いますので、ぜひ時間のある人はお越しください。